

自然との共生について（回答者 369 人）

【調査の目的】

県では、人と自然が共生する社会（自然共生社会）（※1）づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、事業者、NPO・ボランティア等の多様な主体によって生物多様性（※2）の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

生物多様性の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
内容をよく知っている	6	7	11	13	12	11	8	68	18.4%
内容を多少知っている	2	20	24	27	25	35	17	150	40.7%
言葉を聞いたことがある	0	11	14	19	16	18	11	89	24.1%
全く知らない	0	6	14	17	11	12	2	62	16.8%

<直近 5 年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移> ※R4~6 は回答項目が異なる

項目	2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度		2024 (R6) 年度		2025 (R7) 年度	
	人	割合								
① 内容をよく知っている	29	8.1%	43	11.8%	22	5.9%	37	10.2%	68	18.4%
② 内容を多少 (R6まで: ある程度) 知っている	104	28.9%	86	23.6%	93	24.9%	75	20.7%	150	40.7%
③ 言葉を聞いたことがある (R4-6 は項目を変更)	141	39.1%							89	24.1%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる			106	29.0%	122	32.7%	107	29.6%		
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない			65	17.8%	73	19.6%	69	19.1%		
⑤ 全く知らない	86	23.9%	65	17.8%	63	16.9%	74	20.4%	62	16.8%
合計	360	100.0%	365	100.0%	373	100.0%	362	100.0%	369	100.0%

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移 (H23 は生物多様性戦略策定時の数値)

調査年度	認知度合計	(内訳)	
		①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%
令和4年	35.4%	11.8%	23.6%
令和5年	30.8%	5.9%	24.9%
令和6年	30.9%	10.2%	20.7%
令和7年	59.1%	18.4%	40.7%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（3つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	251	68.0%
ゴミの分別や地域のゴミ拾いに参加するなど、ゴミ対策に取り組む	152	41.2%
生きものを最後まで責任を持って育てる	123	33.3%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	120	32.5%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	108	29.3%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	55	14.9%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	31	8.4%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	30	8.1%
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	27	7.3%
特に行いたいとは思わない	6	1.6%
その他	4	1.1%

<特に行いたいと思わないを選んだ理由（抜粋）>

- ・内容を知らないため。
- ・生物多様性は、自然との調和という観点で重要だと思うが、上記の取組がそれに資するかどうか、よくわからず判断ができない。

<その他の回答>

- ・動物を飼わないこと。
- ・ゴミのポイ捨てをしないようにする。
- ・花、野菜を育てる。

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全	215	58.3%
環境に配慮した公共工事の推進	144	39.0%
環境教育の充実	143	38.8%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	131	35.5%
野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止	110	29.8%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供	71	19.2%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	60	16.3%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	51	13.8%
その他	10	2.7%

<その他の回答>

- ・教育機関への積極的な投資が必要。
- ・ソーラーパネルをむやみやたらに増やさないでほしい。
- ・市町村と協力した公園やため池周辺の草刈りに取り組んでいただきたい。
- ・自然や環境に最大限配慮した開発を行ってほしい。

問4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか

項目	件数	割合
多様な主体による活動に対して資金等を助成する	88	23.8%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	82	22.2%
多様な主体による活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	30	8.1%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	38	10.3%
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットや動画を作成し、周知・配布する	121	32.8%
その他	10	2.7%

<その他の回答（抜粋）>

- ・支援も必要だが、県民に伝わるようにまずは行政がしっかりとお手本になって大々的に動く必要があると思う。
- ・再エネ導入が生物多様性に与える影響を再検証すべき。
- ・学校教育の充実など、将来につながる支援に力を入れてほしい。

問5

生物多様性について、県から発信してもらいたい情報（3つまで回答可）

項目	件数	割合
生物多様性の啓発・学習資料(リーフレット、動画等)	137	37.1%
生物多様性に関する県の施策について(生物多様性戦略等)	132	35.8%
県内の希少種について	127	34.4%
イベント情報	98	26.6%
生物多様性に関する地図(生きものの分布図、保護区域等)	90	24.4%
県内の身近な生きものについて	89	24.1%
子ども向けの情報	85	23.0%
県内の外来種について	71	19.2%
自然観察・昆虫採集のコツや楽しみ方	50	13.6%
生物多様性に関する保全活動を行うNPO・企業等の情報	38	10.3%
生物多様性教育に関する人材派遣制度	36	9.8%
その他	3	0.8%

<その他の回答（抜粋）>

・県が主導して特定外来種の買い取り制度を導入すれば、住民参加型の駆除が進み、結果として地域全体での意識向上にもつながると思う。

問6

これまでの設問以外での御意見(計 95 人)

普及啓発・教育	35
開発・整備	10
野生生物関係	8
外来生物（特定外来生物含む）関係	4
環境問題	4
ペット・犬猫関係	2
その他（上記に区分できないもの）	32

<普及啓発・教育>

- ・情報発信としてのリーフレットなど印刷物製作は不要だと思う。資源、経費の無駄遣い。ゴミが増えるだけ。公共施設などで山積みの紙類を見るたびに思う。
- ・在来種や希少種の保全することがいかに国として大切なことなのかを、県民にしっかりと発信されるよう SNS 等を活用していくことが必要。
- ・ゴミの分別や二酸化炭素排出問題等、環境に関連していることが山積みなので、まずは身近なことを我々ができるようなことを示していくことが重要と思う。
- ・福岡県は都市部と自然が共存しており都市部からも比較的近い距離で自然に足を踏み入れることが出来ると思う。その特性を生かし自然と親しむイベント等を計画してはどうか。
- ・幅広い世代に届くような、情報発信や教育、イベントなどの活動を継続することが大切だと思います。
- ・教育機関への積極的な投資が必要です。「脱プラ」や「再エネ前提」といった特定の方向性を一律に押しつけるのではなく、多角的な視点から自由な研究ができる教育機関の環境を整えるべきです。プラスチックも可燃ごみとして燃料代替になるなどの利点もあります。また、太陽光パネルによる地域の気温上昇や、設置によって野山の生態系が損なわれていないかなど、環境に与える影響を総合的に評価すべきです。
- ・子どもたちに対して学校などで特別授業のような形で福岡県の自然(海、山、川、動物、植物など)について積極的に伝えていくことが良いのではないかと思います。子どもたちが直接自然に接する機会が昔と比べ余りにも減っているので、せめて情報を知る機会だけでも大人が提供しないとイケないと思います。
- ・自然との共生について、県の生物多様性保全の取り組みがどこまで浸透しているのかは疑問です。生物多様性の保全が重要であることは広く認識されていますが、実際にどれだけの人々や企業、団体がその取り組みに参加し、効果的に実行されているのかは見えていません。地域ごとの実情に応じた具体的なアクションが求められている中で、その取り組みが広く浸透し、日常的に実践されているかどうかは不透明です。また、政策として掲げられた目標が実際の環境やコミュニティにどのように影響を与えているのか、定期的な評価や改善が行われているかも重要なポイントです。地域の住民や企業が積極的に関わり、自然との共生を実

現するための意識改革が必要だと感じています。そのためには、教育や啓発活動をさらに強化し、具体的な行動に移すための支援が不可欠だと思います。

- ・恥ずかしながらこのテーマに関しては全く知識がなかったので、もっと周知してもらえるような対策を考えてほしい。特に学校などでの教育で取り上げてほしい。

- ・現在自宅にて熱帯魚＋水草水槽を所持しています。購入前に店舗やインターネット、YouTubeなどで自然に離すことは絶対しない、水草は可燃ごみに出すなどの注意喚起がありました。動物園でも野鳥の雛に対する注意ポスターを見かけます。日常のいろいろな場所で告知されていることはとてもありがたく子供と一緒に考える機会になりました。これからも行政による情報の告知をよろしくお願いいたします。

- ・まず認知を進めるところからだと思います。子どものイベントとして扱えばそこに親が集まるので、そうやって認識を広めていくのが無難かと思います。

- ・外来種駆除などをテーマにしてある YouTuber の動画をたまに見ます。面白いし分かりやすく動画にしてくれてるので、小学生でも分かりやすいと思います。そういった有名な YouTuber さんとのコラボ(福岡のスポットの提案など)で自然との共生についてみんなが触れる機会が増えればと思います。

- ・生物多様性はよく耳にする言葉だが、具体的にどのような行動がその保全に繋がるのかをよく知らないと感じた。大人も子供も取り組めることが多そうなので、県民の具体的なアクションに繋がるような提案をしてもらえるとみんなが認識を持って取り組めるのではないか。

- ・自然との共生を実現するためには、「知る機会を増やす」「参加のハードルを下げる」「世代を超えた継続的な活動」に重点を置くべきだと思います。身近な自然に触れるきっかけは、子どもの頃の体験が大きな影響を与えます。例えば、小学校や地域の公民館での昆虫観察や里山散策、干潟体験などを、親子や多世代で参加できるよう定期開催し、その活動を SNS や地域紙でも共有すれば、関心を持つ人が増えます。また、参加やお手伝いの方法が分かりにくいという課題もあるため、イベントや保全活動への参加募集を紙媒体とオンライン双方で周知し、「一回だけでも OK」な関わり方や、自分の得意分野(写真撮影、広報、デザイン、現場作業など)で貢献できる仕組みを整えると、若い世代や多忙な人も関わられます。さらに、外来種対策や希少種保護などの活動は、専門家だけでなく地域住民も協力できる方法を示すことが重要です。例えば、特定の時期に実施する外来植物の抜き取りやモニタリング調査に、事前研修を受ければ参加できるようにするなど、参加条件を明確化することが有効です。情報面では、県の「福岡生きものステーション」を活用し、希少種や外来種だけでなく、季節ごとの身近な生きものの観察ポイントや撮影のコツ、活動の事例紹介を充実させると、より身近に感じられます。また、少ない数かもしれませんが、「昆虫博士」や「生き物博士」と呼ばれたいお父さんやお母さん向けの自然観察会やオンライン勉強会を企画すれば、参加者は楽しみながら知識を深めると同時に、自ら周囲に多様性の大切さを広めてくれる存在になるはずです。観光や地域イベントと連動させることも効果的で、自然とのふれあいを特別ではなく日常的な体験にしていくことが、長期的な意識改革につながります。自然共生は「守る」だけでなく、「一緒に楽しむ」ことが継続の鍵だと考えます。

- ・自然に触れる機会は子供と一緒にいる時が多いので、子供と一緒に考えるきっかけになる記事や、県だよりの特集があると嬉しいです。
- ・家族(特に子ども)向けのイベントで出かける事が多いので、そういった催しものが多くあれば良いと思います。
- ・言葉が難しくなかなかテーマとして浮かび上がらない。発信をお願いしたい
- ・子どもを持たない大人にもこの情報が届き、自然観察やイベント参加など出来るようになると嬉しいです。
- ・生物多様性や共生は大事だと認識しているが、どうしても自身の生活との結びつきが想像できず、何かをすべきというアクションまではいかないし、取り組むべき項目としてもかなり劣後になるのが率直な感想
- ・地下鉄やバスなどに、地域の植物紹介など、近くの学校や地域の人達に、絵を書いてもらい、動物や植物、昆虫などの絵を、駅やバス停で紹介する。福岡の花壇などにも、その地域の事を紹介するような、デジタル看板や照明などがあると、昼以外にも夜明るく、治安も良くなるのではないかと思います。神戸は、街中に花壇も多く、信号機や街灯にも花があつたりと、明るい気持ちにさせてくれました。
- ・自然体験の機会の拡充、子どもや都市部の住民が、自然と直接ふれあう体験が少なくなっています。森林・河川・海などでの体験学習やキャンプ、農業体験など、自然の豊かさや厳しさを実感できる機会を増やすことで、自然との距離が縮まります。
- ・生物多様性情報総合プラットフォーム『福岡生きものステーション』を初めて知りました。まずは、そのホームページを知ってもらうのが良いと思います。
- ・私は「自然との共生」を実現するためには、人間も動物の一部であり、自然の循環の中で生きているという意識を持つことが大切だと考えています。自然が汚染され、破壊されれば、最終的には人間社会も持続できなくなります。そのため、行政や企業がより身近な自然環境に目を向け、積極的に保全へと取り組んでいただきたいと強く願います。

先日、台湾を訪れた際、街並みには大きな樹木が数多く残されており、真夏でも木陰のおかげで涼しく快適に過ごすことができました。公園でも樹木が育ち、自然な日陰が生まれることで、人や生き物が集まり、子どもたちも日中から外で元気に遊んでいました。都市の暮らしと自然環境が調和した良い事例だと感じました。一方、福岡では街路樹や公園樹木の剪定・伐採が過剰に行われており、痛々しいほど枝を切られている現状があります。本当に専門的な判断に基づいた管理なのか、疑問を持っています。単に管理作業を行うことが目的化してはいないでしょうか。樹木を都市環境に欠かせないインフラとして捉え、長期的かつ大局的な視点から取り扱っていただきたいと思います。また、「生物多様性」という言葉は広く使われていますが、実際の施策と結びついていない印象を受けます。例えば、一般の人々が容易に除草剤を購入できる現状にも疑問があります。除草剤は土壌を汚染し、最終的には河川や海へ流れ込み、生態系や人の健康に悪影響を及ぼす可能性があります。こうした身近なところからの改善こそが、生物多様性保全の第一歩になるのではないのでしょうか。以上の点を踏まえ、都市環境の緑を守り、自然と共生できるまちづくりに向けて、行政がリーダーシップを発揮されることを強く希望します。

- ・地域の自然探検を大人と子供と一緒に参加し、自分たちの住む地域の自然との共生について現在できていること、懸念されることを気づかせる取り組みが必要。
- ・身近にいる生物、植物でも、よく見ると魅力があることを伝えて欲しい。私は、今年トウモロコシの種を庭に蒔いたが、実の成る過程を初めて見て感動した。
- ・生き物や環境について、学びの場がなければなかなか知るよしもないと感じる。子どもには学校において、大人にはお祭りなどの場や買い物の場において、啓蒙活動をするとうまい。
- ・生物多様性について教育等の機会を増やすべき
- ・動物とふれあうことで命の尊さを学び、人との接し方にも気を付けるようになればと思います。
- ・学校での社会科見学や、家族単位で参加するイベントや学習機会を設けてほしいと思います。また、地元の企業にも一緒に協賛してもらうことも必要かと思います。
- ・県内の身近な生き物や施設などもっと知る必要があるとは感じます。知る機会が減っているとも思います。
- ・ホテルのイベントや、博多湾の生物観察イベント、ブルーカーボンや港湾の藻場干潟造成などのイベントなどを県が開催すると、より親しみが湧いて環境教育に資すると考える。
- ・生物多様性に関する子供たちへの教育が一番有効だと考えます。
- ・自然との共生は、必要です。しかし、正しい認識を持っていないと、クマの駆除の問題のように、ただ騒ぎ立てるだけの一過性のものになってしまいます。人間の生活と自然との共生には、その対応において、どこかで線を引く明確なルールづくりが必ず必要になっていくと思います。例えば、福岡ではクマやシカ、イノシシの駆除等の問題を、学校教育の場で論議する活動を通じて、子どもたちへの関心や考えを深めさせたり、議会で討議し、市町村民や県民への意見を求める等、多くの考えをしっかりと出し合っていく中で、自然との共生の意識を高めていく機会を設けていって欲しいです。これからの自然との共生のルールを皆で作っていって欲しいです。
- ・昨今、町中(郊外でも?)では自宅近くの公園や野原といった自然環境の中で主体的に遊ぶ子ども達が激減していると感じる。この気候変動も原因としてあると思うが、身近にいる昆虫にも接したことがない小中学生も多く、経験がない分だけ「自然との共生」に対する関心も知識もないのではないかと思う。親世代への啓発が大切ではあると思うが、「共生」を感じる・考えることのできる場の設定は、行政としても重要だと思う。
- ・巣から落ちて弱っているスズメに遭遇することがあり、助けたいけれどどうしたら良いのか分からず、ネットで色々調べたりしますが、これまで一度も助けることができていません。周りでもそんな話をよく聞くので、専門的な知識やアドバイスを広報誌などで掲載していただけると有難いです。

<開発・整備>

- ・上にも記載しましたが、公園や遊歩道についてです。まっすぐな道ではなく曲がりくねった道。歩みにくさが少しあってもかまわないので、ゆったりとした気持ちになれるような公園を増やして欲しいです。最近の公園は運動器具があったりランニングできるようになっていたり、それも必要かとも思いますが、木漏れ日の中をくねくねとゆっくり歩けるような場所も町中に整

備して欲しいです。町中にも緑が必要です。危険を回避するばかりでなく、危険を回避できる能力を身につけられる場所も整備してください。

・自然との共生を掲げながら、人間の経済活動を優先した公共事業が多いと感じる。経済が発展しないと県民が困窮してしまうが、無駄な開発や工事もあると思われる。既得権益を捨て、本気で取り組まないと、取り返しのつかないことになると思う。また、県民一人ひとりの意識も高めるような啓発もお願いしたい。

・現在、メガソーラー建設による環境破壊が問題となっている。県内においても山を切り開いたり、森林を伐採してメガソーラーが設置されているのを見かけることがある。また産業廃棄物の不法廃棄や盛り土の問題などもある。公共の土地ではない場所での制限や取り締まりは難しいと思うが、行政が積極的に関わり、指導や助言をしてほしい。近隣の住民や環境などにも配慮して進めて欲しい。大きな災害にもつながるようで怖い。

・特にないが、どんどんと都市化になる一方で自然が切り開かれといくのは悲しい。

・生き物を大切にすることとは、住処になっている山や森も大切にしないといけないということです。近年は森林を伐採しメガソーラーを大量に建設しているというニュースを目にします。そして、その影響で地面の保水力が弱まり土砂崩れが起きたり、また一番怖いのはメガソーラーの発火です。読んだ記事には、メガソーラーは電気機器なので発火しても放水にて鎮火すると感電の恐れがあるため自然鎮火するのを待つしかない。そうすると周りに残っている大切な木々たちにも火がうつり大災害になるし、そこを住処にしている動物たちにも大きな影響を与えます。日本は今異常な気温上昇で真夏は子どもたちが外で遊ぶこともできない状態ですので、メガソーラーよりも植林をし、緑を増やし、地面の温度を下げる、これが人にも他の動物たちにもそして地球にも必要なことだと思いますし、そういった知識の発信もしていくべきだと思います。

・環境を整える事が大事だと思う。最近目に付くのが外国人観光客だが、街中でも一般道でもゴミを平気で捨てたりタバコを吸っていたりする。マナーを厳格に守るよう周知して欲しい。経済面で潤うより環境、生態系を守る方が優先されるのは当然だと思う。

・公園の整備を進めて欲しい。近所の小さな公園はいつも荒れていて、子供一人では危ない。

・無理な開発や自然破壊を防ぐ未来の世代にも自然の恵みを残す

・身近な生物が生息するための、緑が多い公園の存在が少ないと思います。街中にもっと緑を多く植栽することで温暖化に対して少しでも対策となるような建物や施設に対して補助金を出す等の施策に対して積極的に取り組んで頂きたいと思います。

・メガソーラーが問題となっている。結局は環境破壊に繋がるし、野生生物が住む場所を奪うことになる。本末転倒である。本質を大事にし、環境保護、野生生物の元ある姿を守ることを大切にしてほしい。

<野生生物関係>

・早朝に小石原などに行くと鹿やイノシシなどたくさんの野生動物に遭遇します。現地の方たちは上手に共生されていると思います。(もしかしたら結構困られているのかも???)

ジビエもおいしいし、自然をこのまま残していけるようにしたいですね。

- ・最近、野生動物と人間のトラブルが多く報じられている。どうしたらゾーニングできて共生しながらも維持できるのかを考えていく必要があると思います。ただし、ゾーニングのためには、ある程度犠牲にしないといけないものがあるからです。例えば、ゾーニング境界線の部分の利用者は、境界線を下げる必要があると思います。最近、こんなところで「タヌキ」に出くわすという場面がありました。小学校の近くの側溝から出てきました。県でもタヌキなどの情報をサイトにアップできるとありましたが、すぐにスマートフォンで撮影できないと思いました。場所だけの情報も通知できるのでしょうか。(テレビで少し見かけたただけなので申し訳ありません)
- ・地域によっては、いわゆる害獣とされてしまっているイノシシやシカなどとの共生は難しいと思う。どうバランスをとるのか、課題だと思う。
- ・地元の猟師さんたちの活動も一定の個体数を維持するための立派な自然との共生事業だと思う。県内での鹿やイノシシなどのジビエ料理を出すお店などの情報も含め、保護することだけで無くそれを管理する視点も発信できたら良いのにはと思う。
- ・熊や鹿は殺傷して、御当地グルメとして、食べられる様にして売り出して欲しい。地域のグルメにするくらいしないと、地域活性化にならないし、保護だけしてもお金がかかるのなら、保護をやめて、経済が潤うような方法転換をして欲しい。
- ・鹿や猪等の害獣駆除をする人への報酬、駆除した害獣を調理提供する店舗や肉類の加工食品、ペット食品を販売する事業所に、福岡県の認定マークを貼ってもらい、福岡県が店舗や事業所を、SNS やホームページ等で紹介する。
- ・街に降りてきた鹿や熊、猿などは駆除することで人間と動物がより共生出来ると思う。
- ・中山間地域における害獣被害が多いため、資金的援助をしてほしいと思う。従前の農水省の中山間地域交付補助金の、県での拡充のほか、捕獲罠設置における市町村への補助や、耕作放棄地への新規就農の促進をはかることで、中山間地域を維持できるようにしてほしい。

<外来生物(特定外来生物含む)関係>

- ・自然保護からも我が国本来の生物植物を守り外来種排除すべきだ
- ・生きものの中には食用・害虫・天然記念物など、共生については考えがまとまらないでしょうが、すべての生命は尊重されるべきで、外来種でも害虫でも悪ではないと思います。
- ・外来種を駆除する取り組みを推進してほしい。ジャンボタニシなど、本当に多くて、生態系が壊れている。
- ・外来種と温暖化が生態系を変化させ続けている。変化していくのは仕方がないことかもしれないがホタルが見れなくなるのは寂しい。生態系バランスはとても難しい問題なので専門家による検討会が必要と考える。

<環境問題>

- ・ゴミ拾い活動など、子どもたちとしているが、もっと行政からの協力(支援など)があれば、多くの人の意識が高まると思います。活動している地区とそうでない地区の差が大きいです。
- ・最大の問題は、CO2を排出する人間の経済活動が増大しているのに、CO2を吸収する森林が減少していることだと思います。バランスがどんどん崩れていく地球の生物界の将来が危惧されます。

・昨今の温暖化や、熱暑、ゲリラ豪雨など自然の法も変化を遂げています。これからはよりその変化に即した対応が求められると思います。

・昆虫が目に見えて少なくなり、最近はそのエサにする小鳥も減っている。農薬もその一因と思うが、一方で山間地は農業の衰退でシカとイノシシがはびこっている。農家への支援と、その一環として有機農法や無農薬野菜を推進できないか。佐渡でのトキ保存に取り組んだ米農家の例など、参考になると思う。経済的にも一筋縄ではいかない難しい課題だが(佐渡も米の収穫量を減らしてなお努力を続けている)、農業支援・環境保全は県民全体で取り組むべき価値があると思う。

<ペット・犬猫関係>

・野良猫への対応について。野良犬は見ないが野良猫はまだまだかなりの数がいる。県をはじめとして各自治体の対応はどうなっているのか。

・自然との共生について犬猫の殺処分現状など、ペットを飼育しているからこそ増えている残酷な問題を知る機会を増やしてほしいです。SNS でインフルエンサーなどが発信している情報から知ることが多いから地方公共団体からそういった情報を見る機会がほとんどなく、ペットを飼っているのもそういった実情を知ると、何か協力できることはないかといつも思っています。

<その他>

・質問にある生物多様性に配慮した行動というものの意味がわからない。旬のものを買うこと、自然と触れあうことのどこが生物多様性に配慮しているのかわからない。あくまで自己満足でしかないことが選択肢に入っていることに違和感を覚える。

・住宅地都会の福岡市から、北九州市に嫁ぎました。自然豊かな八幡西区でエコに沿った生活は楽しい限りです。又さらに研鑽を深めて、自然と共存したいです。

・日頃個人的には関心が深くないので、あまり考えませんが、蛍がいなくなったこと、蛍を見たことのない子供たちが増えていることには寂しさを感じます。蛍を増やす運動を呼び掛けることだけでも、環境の改善につながるのではないのでしょうか。

・今後も地域のまちづくりに協力する。

・周りに自然があることが当たり前じゃないことを意識していきたいと思います。

・私に実家は下関の郊外にあります。上の部落に通じる道路を拡張することになりました。この道路には側溝があり、多くの生き物が住んでいました。小鮎、タニシ、メダカ、など多数。この拡張計画を知った友人の T さんは、工事が始まる前に網でこれらの小動物を掬い、毎日、毎日、近所の池に移しました。彼の善行によって多くの生き物の生命が救われました。その後、生き物の宝庫だった側溝はコンクリート製となり、生き物は全く生存しておりません。

・自然の保全については個人や私企業では限界があるので、公費投入を積極的に行う。

・共生という言葉はどうもピンとこないが、つぐない、だとまた少し違う事になりますかね。しかし大事な考えだと思うので努力をされている団体の方々をどんどん支援していただきたい。

・我が家に毎年ツバメが必ず来ます。優しく見守り、カラスなどの敵から守って巣立ちまで応援しています。

- ・私は天拝山などゴミ拾いボランティアしてるが、筑紫野市環境課はそのゴミを受け取らないばかりか、ボランティア支援しないと通告してきた。福岡県が発信しているワンヘルスに筑紫野市は協力できていない。これでは日本遺産「西の都」認定取消しになって当然であると考えている。
- ・全然知らなかった。勉強になった。
- ・種の減少の現状を周知する。明らかに減少につながる活動に対する罰則の規定
- ・管理はとても大変だと思います。なので市税から、団体へ助成があったりすると良いと思います。
- ・遠くの山や川にレジャーに行きづらい人もいます。私は近所の大きめの公園や、周囲に散歩コースのある大きめの池で自然を感じています。鳥や虫がいます。ぜひ身近な自然も守っていただきたいです。女性も1人で安心して過ごせるようなベンチや、見晴らしのいい植栽をお願いします。
- ・生物多様性に関する県の施策として、何を行い、そこにいくらの予算を使ったかを公表し、県民の理解を促す努力をして欲しい。
- ・この問題にはこれまであまり意識したことがありませんでした。
- ・県での取り組みには、もっと力を入れていただきたいと感じます。福岡県の自然共生をめぐるっては、都市の緑不足、中山間の荒廃化、沿岸生態系の劣化、が同時進行しており、基礎自治体の財政力・人員差が対応に響いてくるように感じました。そうしたなかで、県として、基準設定、資源配分、広域連結、を通じて状況改善に努めるにあたり、県 GIS で優先区域を可視化したり財政力指数に応じた傾斜配分を進めたりしつつ、基礎自治体を越えてまたがる生態系ネットワークを支える取り組みが重要になるように感じました。
- ・自然と共生については、私自身もこれまで特に意識していませんでした。今回の調査の目的を見て、意識が深まりました。
- ・蛍を見に行くバスツアーに来年こそ子供と行きたいと思っておりますが、今どこで蛍が見れるのか、等のマップや一覧がみられるものがあるといいなと思っています。
- ・正直、活動すら知りませんでした。
- ・これまで身近にいた生物や動物が見れなくなってきており、子どもたちも触れ合う機会が減っていると思います。環境保全に取り組みながら、子どもたちに日本らしい生物や動物を見せられたらと思います。
- ・福岡は自然と街のバランスが良い所なので、これからも共生できるようにしていきたい。
- ・自然との共生は大事だと思うし、保全していくべきだと思う。そのため、まずは外国人による土地の取得に制限、または禁止するべきだ。福岡県は条例等でまず率先して制限をかけてほしい。日本の美しい自然をしっかりと守ってほしい。
- ・多様性よりも福岡県民の子供ファーストでお金を投資してほしい
- ・自然を壊さない取り組みが必要
- ・他に大事な事はたくさんあるし県が行う本来の仕事ではないと思います
- ・身近なものにホテルがある。子供達にも残してあげたいです。

・県は国から言われてやっている感を出したいだけではないのか。ほんとうに重要だと思っていますか。

・生物多様性の保全を多様な主体と共に進めるためには、行政主導ではなく「県民・企業・教育機関・NPO・地域団体」がそれぞれ役割を持ち、連携しやすい環境を整える支援が重要です。まず、情報共有と学びの場の提供が不可欠です。県内の希少種や生態系の現状、保全事例、活動団体の情報を集約した「生物多様性ポータルサイト」を整備し、活動希望者が参加先や方法を探しやすくします。また、学校や地域での環境教育や体験型プログラム（里山保全、干潟観察など）を支援し、子どもの頃から自然と触れ合う機会を増やします。

次に、活動資源の支援として、小規模団体や個人でも応募できる助成金制度や物品提供（苗木、清掃用具など）を充実させます。特に企業 CSR やふるさと納税を活用した資金循環の仕組みを作ると、持続性が高まると思います。さらに、協働の場づくりとして、行政・企業・団体・市民が交流し、共同プロジェクトを立ち上げられるマッチングイベントやオンライン会議を定期開催します。これにより、専門性や人材、資金の不足を補い合えます。最後に、活動の見える化も重要です。参加者や成果を写真・動画・数値で公開し、社会的評価や参加意欲を高めます。県が「生物多様性貢献企業・団体認証制度」を設けることで、活動の魅力と意義を広く伝えられるでしょう。このように、情報・資源・協働・評価の 4 本柱で県が支援すれば、多様な主体の継続的な参画が促進されると思います。

・きちんと効果が見込める施策に、予算が使われて欲しい。

・鳥獣保護の名の下に、ハトの糞対策、人を攻撃するカラスの駆除やその数を減じることに取り組もうとしないことは、市民生活の安全や生活環境を侵害している行為と考えている。